

岩木山を考える会 2024年度総会

資料編

目次

資料1	第28回写真展「私の岩木山」出展目録	2 ページ
資料2	弥生スキー場跡地の利活用に係る要請書	3 ページ
資料3	岩木山西法寺森下1150m付近湿地植物・生物	4 ページ
資料4	第42回東北自然保護の集い福島集会アピール要望書	8 ページ

第28回写真展 「わたしの岩木山」出品目録

2024年2月23日～25日 於、弘前市百石町展示館

No.	出品者	タイトル	No.	出品者	タイトル
1	坂本 隆	ダブルの月と金星	32	藤原竹二	錫杖清水に咲くミチノクコザクラ
2		ダイヤモンド津軽富士	33		岩木山神社奥宮
3		岩木山に沈む水星とおうし座	34	尾坂 康	大森勝山遺跡を散策するニホンカモシカ
4		三日月(地球照)と岩木山	35		岩木山と菜の花畑
5	中山康司	岩抱のブナ	36		厳しい冬の到来
6		からしなの丘	37		溜池に咲くスイレンと残雪の岩木山
7		赤倉の朝焼	38		陸奥湾に煌めく青森市街と岩木山のシルエット
8		赤倉の流れ	39		下北半島縫道石山山頂から岩木山をのぞむ
9	金枝壽孝	お猿のお地藏さん	40	飛鳥和弘	オオワシ
10		岩木山の里に桜咲く	41		オジロワシ
11		ベンセ湿原沼と風車と岩木山	42		クマタカ
12		朝焼けに染まる岩木山	43		ケアシノスリ
13		朝焼けに染まる黄金色の世界	44		オオタカ
14		山桜と岩木山	45		ハイイロチュウヒ(♂)
15	竹浪 純	9合目から岩木山頂を望む	46		ハヤブサ
16		七里長浜遠望	47		ハイタカ
17		赤倉キレット方面を望む	48	コチョウゲンボウ(♂)	
18		岩木山頂方向を見上げる	49	森山 豊	参詣森より森山と岩木山をのぞむ
19		山体の光と影の造形	50		市役所より藤田記念館と岩木山をのぞむ
20		強風で目が開けられない	51		りんご公園より岩木山をのぞむ
21	佐藤文猛	ねぶた祭りと岩木山	52		八幡平塚より愛宕様と岩木山をのぞむ
22		菜の花畑と岩木山	53	駒越の橋より10km	
23		藤の花と岩木山	54	花田一雄	赤倉沢ヒビの滝
24		リンゴ畑と岩木山	55		赤倉沢最奥の堰堤から
25		堀の桜と岩木山	56		紅葉の二子沼上沼
26		エゾノリュウキンカ	57		初春の二子沼下沼
27	ザゼンソウ	58	岩木山と1本桜		
28	藤原竹二	りんご公園からの岩木山	59		サワギキョウ(沢桔梗)
29		百沢スキー場と残雪の岩木山	60		ルリソウ
30		シラネアオイと岩木山	61	岩木川源流域大川のタカヘグリ	
31		赤倉御殿からの岩木山頂			主催 岩木山を考える会

2023年11月13日

弘前市長 櫻田 宏 殿

弥生スキー場跡地問題を考える市民ネットワーク

共同代表 小堀英憲(岩木山を考える会)

共同代表 葛西 聡(弘前市民オンブズパーソン)

共同代表 今泉昌一(弘前市を考える会)

共同代表 土岐峯子(コープあおもり弘前地域)

共同代表 平山忠衛(津軽保健生活協同組合)

共同代表 須藤 宏(市民が主人公のみんなの会)

弥生スキー場跡地の利活用に係る要請書

<要請内容>

弘前市は、弥生スキー場跡地の保全と活用の計画の策定とその具体化を図ってください。具体的には以下の措置を講じてください。

1. 弥生いこいの広場整備計画とは切り離し、弥生スキー場跡地の整備を検討する、地域住民、市民、専門家を含めた検討チームを早急に立ち上げること。
2. 残されている集水塔の除去を行い安全を確保すること。
3. 弥生スキー場跡地の持つ教育機能を来訪者に伝えていくための体制の確保とガイド養成に着手すること。
4. 当面、これまで市が実施してきた観察会エリア部分については、刈り払い等の整備を行い一般に公開すること。

<要請の理由>

弘前市が弥生スキー場跡地での観察会を主催し、弘前市民を跡地に招くようになってから10年が経過しました。延200名を超える市民が観察会に参加し、花を楽しみ、虫を捕まえ、自然の多様性に触れることが出来ました。観察会を続ける中で、跡地の中に観察道が形作られ、今では少しの手入れで観察会参加者が安全に自然を楽しむ環境が出来つつあります。この10年間で弘前市にもスキー場跡地に関する知見が蓄積されてきたのではないのでしょうか。

弘前市教育委員会は跡地の利活用に関心を示し、現在、私たちは教育委員会の紹介を得て、市内小学校の授業の中にこの場所での環境教育のプログラムを取り入れてほしい旨、小学校長会に働きかけております。来年度以降、市内小学校における本エリアの利活用が始まれば、スキー場跡地の価値が市民にも広く伝わることとなります。こうした進捗にふさわしい、市としての対応が求められています。

弘前市はこれまで、この弥生いこいの広場隣接地の整備に関して、動物広場の全面改修を含む弥生いこいの広場の整備を進めることがまず先で、跡地の整備は弥生いこいの広場整備のめどが立たないうちは考えられないと主張してきました。しかし、いこいの広場の整備計画にめどが立っていない現状では、整備計画の進捗の動向にかかわらず、市教育委員会と連携して弥生スキー場跡地の利活用に本腰を入れるべきで、そのことが弘前市の財産の有効利用と市民の利益につながるであろうことは明らかです。

以上

<連絡先> 竹浪純(事務局長) 弘前市安原 3-3-11 Mail takenami1717@gmail.com TEL 070(6952)2614

No.	科	植物名	2012 7/8	2013 9/8	2014 8/24	2015 7/12	2015 10/8	2016 8/21	2017 9/22	2018	2019 9/10	2020 8/25	2021 9/15	2022	2023 7/5
68	カヤツリグサ科	タカネヒメスゲ	●												○
69	カバノキ科	ダケカンバ	●		○							○	○		○
70	ユリ科	タケシマラン				●									○
71	キジカクシ科	タチギボウシ				●			○			○	○		○
72		タチヤナギ											●		
73	イネ科	チシマザサ										●	○		
74	ウルシ科	ツタウルシ				●									○
75	カバノキ科	ツノハシバミ				●									○
76		ツボスミレ											●		
77	サクラソウ科	ツマトリソウ	○			○			○			○	○		○
78	キンポウゲ科	ツルキツネノボタン				●							○		○
79	ミカン科	ツルシキミ			●								○		○
80	ラン科	トキソウ	○		○	○							○		○
81	バラ科	ナナカマド	●		○	○						○	○		○
82	カヤツリグサ科	ナルコスゲ	○												○
83	キク科	ナンブアザミ				●									○
84	ホシクサ科	ニッポニンヌヒゲ										●	○		○
85	ユリ科	ネバリノギラン	○			○							○		○
86	アヤメ科	ノハナショウブ	○			○							○		○
87	アジサイ科	ノリウツギ			●	○							○		○
88	イヌガヤ科	ハイヌガヤ			●	○									○
89	モチノキ科	ハイヌツゲ				●						○	○		○
90		ハウチワカエデ											●		
91	ツツジ科	ハクサンシャクナゲ	●		○	○						○	○		○
92	ラン科	ハクサンチドリ	○												○
93		バッコヤナギ											●		
94		ハナヒリノキ											●		
95	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ				●						○	○		○
96	スイレン科	ヒツジグサ	○												○
97	ヒメシダ科	ヒメシダ				●						○	○		○
98		ヒメシロネ											●		
99		ヒメミスゴケ											●		
100	モチノキ科	ヒメモチ				●									○
101	イグサ科	ヒライ(イヌイ)			●	○							○		○
102		ヒルムシロ													●
103	イグサ科	ヒロハノコウガイゼキショウ										●	○		○
104	カヤツリグサ科	フトイ			○	○						○	○		○
105	ガマ科	フトヒルムシロ			●	○							○		○
106	ブナ科	ブナ				●						○	○		○
107		ベニバナイチゴ											●		
108		ホソカワモズク											●		○
109		ホソバタマミクリ											●		
110	カヤツリグサ科	ミカヅキグサ			●			○				○	○		○
111	ガマ科	ミクリの仲間										●			
112	オトギリソウ科	ミズオトギリ	○		○	○							○		○
113	ミズキ科	ミズキ				●							○		○
114		ミズゴケ													●
115	ヤナギゴケ科	ミズシダゴケ				●									
116	サトイモ科	ミズバショウ	○		○	○			○			○	○		○
117	カヤツリグサ科	ミタケスゲ	○			○						○	○		○
118	カヤツリグサ科	ミチノクホタルイ										●	○		○
119	ミツガシワ科	ミツガシワ	○		○	○						○	○		○
120	カヤツリグサ科	ミツカドシカクイ										●	○		○
121	カエデ科	ミネカエデ	●		○	○						○	○		○
122	ヤナギ科	ミネヤナギ			●	○						○			○
123	カヤツリグサ科	ミノボロスゲ				●									○
124	イグサ科	ミヤマイ	○												○
125	ヤナギゴケ化	ミヤマカギハイゴケ				●						○			○
126		ミヤマカタバミ?											●		
127	キンポウゲ科	ミヤマキンポウゲ													○
128		ミヤマセンキュウ											●		
129	バラ科	ミヤマナナカマド						●							○
130		ミヤマハンノキ											●		
131	ラン科	ミヤマフタバラン				●									○
132		ミヤマホソコウガイゼキショウ											●		○
133		ミヤマホタルイ											●		
134		ミヤマホツツジ											●		
135		ミヤマヤナギ											●		

No.	科	植物名	2012 7/8	2013 9/8	2014 8/24	2015 7/12	2015 10/8	2016 8/21	2017 9/22	2018	2019 9/10	2020 8/25	2021 9/15	2022	2023 7/5
136	イネ科	ムツノガリヤス				●						○	○		○
137		ムラサキヒシヤクゴケ											●		
138	ミズゴケ科	ムラサキミズゴケ				●							○		○
139		ムラサキヤシオツツジ											●		
140	モウセンゴケ科	モウセンゴケ	○			○			○		○	○	○		○
141	キンポウゲ科	モミジカラマツ	●		○	○							○		○
142		ヤチカワズゴケ											●		
143	ヤバネゴケ科	ヤバネゴケ										●			
144	イワデンダ科	ヤマイヌワラビ				●									○
145	ウルシ科	ヤマウルシ				●						○	○		○
146	ラン科	ヤマサギソウ			○?										○
147	キジノオシダ科	ヤマソテツ				●									○
148	ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	●			○							○		○
149		ヤマブキシヨウマ											●		
150	イネ科	ヨシ(アシガヤ)	●		○	○			○			○	○		○
151	アカネ科	ヨツバムグラ				●									○
152	カヤツリグサ科	ワタスゲ										●			○
● 今年新たに発見されたもの			14	1	8	40	4	0	0	0	0	18	29	0	7
確認した種数			38	2	31	69	5	2	7	0	2	55	88	0	119
			阿部 竹谷 藤原 藤原 竹 笹森	阿部 竹谷 花田	阿部 竹谷 藤原 他8名	阿部 竹谷 藤原 裕		花田 竹谷	阿部 竹浪	調査 なし	竹浪	石戸谷 芳子 松本明 男 平山惠 子 奈良岡 弘治 澤田満 乗田利 一 山岸洋 貴 竹浪純	太田 澤田 乗田 葛西 横山 石戸谷 竹浪	調査 なし	太田 葛西 平山 石戸谷 竹浪

第42回東北自然保護の集い福島集会

アピール

東日本大震災から12年8ヶ月、華やかな国際イベントを始めとする復興の取組みと共に、その悲惨な過去は忘れられつつあり、厳しい現状への注目は薄らいでいます。さらに、廃炉を進める福島第一原子力発電所に溜まり続けるALPS処理水の海洋放出に対する不安や影響は多方面に及び、苦悩する人々が尽きることはありません。他方、震災を契機に再生可能エネルギーへの転換が国策として推進され、巨大な風力発電施設や大規模太陽光発電などの大型開発が東北各地の豊かな森を蝕むように進められています。特にブナを始めとする脊梁山地の森や「緑の回廊」も対象地となり、かつての森林伐採や林道開設、リゾート開発を免れた東北各地の豊かな自然、景観は急速に失われようとしています。

私達は福島県大玉村に集い、これらの問題を真剣に議論しました。そして豊かな自然とともに、人々が安心して生活できる東北地方である続けるために次のアピールを行ないます。

1. 福島第一原子力発電所の廃炉に伴う処理水の海洋放出は中止すること。
2. 東北の豊かな森や海岸を対象に計画されている大規模な風力、太陽光等の再生可能エネルギー開発は、地域にとってのかけがえのない景観に深刻な影響を及ぼし、さらには、生態系を分断、生物多様性を破壊するとともに自然災害の激甚化を招く行為である。収益を優先する企業論理に翻弄されることなく、住民合意の下、地産地消を前提に住宅、大型施設、遊休農地などの活用を優先し、自然と共生、同化した施設に限定すること。また、一層の省エネ化を推進すること。
3. 温暖化とともに頻発する台風、豪雨などの自然災害は、これまでの経験や予測を超越した大規模、かつ、高頻度で発生しており、森林の保全は最優先しなければならない。水源かん養保安林などに代表される保安林の拡充を図るとともに希少な動植物が生息する自然環境を有する森林は未来の世代へ残すべき国民の財産である。特に国有林における「森林生態系保護地域」を始めとする保護林、緑の回廊はその中心であり、厳格に保全すること。
4. 気候変動や人口減少が加速する中、山村を始めとする地域での野生鳥獣との軋轢は都市部へも及んでいる。生態系の変化が深刻化している現状を直視し、奥山との境界に位置する里山の整備は喫緊の課題であり、速やかに対策を実施すること。

2023年11月12日
第42回東北自然保護の集い 福島集会
参加者一同

2023年11月30日

各県知事 ●●●● 殿

大規模再生可能エネルギー開発に係わる要望書

第42回東北自然保護の集い・福島集会
実行委員長 東 瀬 紘 一
東北自然保護団体連絡会議

立冬の候、貴職ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より、環境行政にご尽力のこと、こころより敬意を表します。

さて、私たちは去る11月11日～12日の二日間にわたり、福島県安達郡大玉村にて東北6県の自然保護団体（20団体）により「第42回東北自然保護の集い・福島集会（テーマ：再生可能エネルギーとの共存を考える）」を開催いたしました。

会議では各地の課題を共有し、議論の結果、別紙「大会アピール」を採択、関係行政機関への要望を行うことといたしました。

つきましては、以下により要望いたしますので、何卒よろしくお願いいたします。

記

1. 大規模風力、太陽光発電開発は地域の景観や自然環境を著しく悪化させるものであり、初期段階より地域住民へ詳細な情報提供を行い、合意形成を条件とすること。
2. 東北地方の豊かな森林は地域の貴重な財産であり、激甚化する自然災害防止の面からも保全を最優先し、特に自然公園、各種保安林、砂防指定地に加え、国有林における保護林、緑の回廊は、厳格に保護すること。
3. 再生可能エネルギー開発は住民合意の下、地産地消を前提に住宅、大型施設、遊休農地などの活用を優先するとともに、一層の省エネ化を推進すること。